

「医業経営ビジネス交流会2009」を開催しました

2009年1月24日、ふくおかフィナンシャルグループ及び傘下行の主催による「医業経営ビジネス交流会2009」を福岡山の上ホテルにて開催しました。交流会当日は降雪となりましたが、九州・山口全域から100病院を超える200名近くの病院経営者と幹部の方々にご参加いただき盛況に行われましたので、この模様をご紹介します。

病院経営の今後の方向性を探る

本会は、「医療制度改革を見据えた病院経営を考える」と題し、病院経営の今後の方向性を探るとともに医療圏や県境を越えた病院経営者の交流を目的に基調講演・医療機能別セミナーと交流会が行われました。

講師陣は、全国的に高名な病院経営者や医療介護経営に精通した大学教授の先生方をお招きし、医療制度改革の現状や介護報酬改定の基調講演と急性期病院、慢性期病院、精神科病院の3つに分かれての医療機能別セミナーを行い、大変貴重なご講演をいただきました。

さらに、講師の先生方のご講演後にはご参加者から熱心な質疑が交わされました。



講演風景

ここで、講演の一部をご紹介します。

慢性期病院向けセミナー 「慢性期医療と療養病床転換の行方」

慢性期病院向けセミナーでは、特別医療法人恵和会西岡病院 理事長で社団法人全日本病院協会 会長の西澤先生に「慢性期医療と療養病床転

換の行方」をテーマにご講演頂きました。

西澤先生からは、「慢性期病棟の入院患者に対して、医療提供が不可欠な疾病特性・状態を定め、各患者に対する医師・看護師・介護職員などの業務量、薬剤費、医療材料費等によって診療報酬をきめるケースミックス分類を行うべき」とし、慢性期入院医療



特別医療法人恵和会西岡病院 理事長
社団法人全日本病院協会 会長 西澤 寛俊 氏

についても急性期医療と同様に医療の質の評価が求められるとのご発言がございました。

さらに、「医療区分2・3が医療療養病床の対象となり、医療区分1は介護施設の対象となる流れができており、介護療養病床は療養型老健に誘導されている」とご指摘。

また、2012年度の診療報酬・介護報酬同時改定では、医療保険と介護保険の整合性を確保できるよう整理していくことが必要であり、さらに私見としながらも「現在の老建施設は介護報酬で医療が包括されている。それを外付けにしてもよいのではないか」とも述べられました。

県境を越えた病院経営者の 方々の交流

本会は、医療制度改革や介護報酬改定など変革の大きい病院経営において、「同じ医療機能をもつ病院同士が幅広く情報交換を行える交流の場を設けて欲しい」とのお客様のご要望にお応えしたものです。

交流会では、ご参加者と講師陣及びふくおかフィナンシャルグループの役員との意見交換をはじめ、FFG傘下行の医療介護専門部署である医療チームの担当者が、熊本県や長崎県の病院経営者に同じ医療機能をもつ福岡県内の病院経営者をご紹介しますなど



交流会風景

の形で意見交換が活発に行われました。

また、福岡県、熊本県、長崎県、九州大学、長崎大学、福岡大学、久留米大学、国際医療福祉大学の皆様からは、本会開催の趣旨にご賛同いただき、ご後援をいただきました。交流会には、ご後援の大学病院等関係者の方々もご参加され、病院経営者・幹部の方々と意見交換や親睦を図っていただきました。

ご参加者のアンケートでは、「満足度の高い交流会であった」、「次回開催の場合参加し

たい」とのご意見を多数頂戴いたしました。

今後とも、ふくおかフィナンシャルグループでは、お客様のご要望・ご期待にお応えするセミナーや交流会の開催、情報発信に努めてまいります。

（松野 浩介）

